



新設した図書室は、休日には職員向けの学童保育の場として活用

Best Human ISHIKAWA
ベストヒューマン
石川
ドクター編 ②④

金沢大学附属病院病院長
金沢大学副学長
蒲田 敏文

日本一きれいで、 患者と職員に日本一 やさしい病院を目指す

金沢大学附属病院病院長
金沢大学副学長

がばた としふみ
蒲田 敏文氏

1957年 羽咋郡志賀町(旧富来町)生まれ
1983年 金沢大学医学部医学科卒業
1997年 米国Thomas Jefferson大学放射線科留学(Visiting fellow)
1999年 金沢大学医学部で講師、助教授などを歴任
2013年 同医薬保健学総合研究科経血管診療学(放射線医学)教授
2015年 同医薬保健学総合研究科放射線科学教授
2016年 金沢大学附属病院病院長
2018年 金沢大学副学長(病院改革担当)、日本医学放射線学会理事

象牙の塔などと囁かれたりもする大学病院ですが、北陸の医療の中枢をなす金沢大学附属病院の蒲田病院長は、そんなイメージを微塵も感じさせない笑顔のドクター。愛される大学病院を目指す同院の独自の取り組みをご紹介します。

人材を育て、高度医療に挑み、 北陸の医療を支える中枢病院

金沢大学医学部は、北陸3県で最も古い医学部です。卒業後もここに残留して活動する者が多く、北陸の主要病院に大勢の医師を派遣。放射線科に至っては金沢大出身の医師が約9割を占めており、長きに渡って当地の医療を支えてきました。

診療面でも地域を牽引、話題の手術支援ロボット「ダビンチ」などいち早く最新型を導入しています。「ダビンチ」は昨年、保険適用枠が一挙に増えたのですが、所定の症例数を満たさないと適用が認められないため、数百万円にも

及ぶ手術費を本院で負担。1年間で規定の数をクリア、保険診療が可能になりました。

私自身も本学の卒業生で、放射線科の医師としてここで30数年間働いてきました。放射線科には画像診断以外にもカテーテル治療や放射線治療という大事な仕事があり、院内のどの診療科とも密接に繋がっています。こうした放射線科の役割が評価されたのでしょ

病院づくりは人づくりから 人材確保に向け3目標を設定

病院長となつて私なりに考えたところ、病院は公的機関ではあるけれど、運営して収益を出すという点では一般の会社と同じだと気づきました。会社は商品売って利益を上げます。では、病院は何を売ればいいのか。

行き着いた答えが「人」です。いい医療人を育てていい医療を提供すれば、おのずと患者さんが集まり、収入が増える。つまり病院は「人」を売るところ、そのためには人材の確保が最重要だと考えたのです。

いい人材を確保するには働きやすい

環境を整えなければなりません。職員がいい環境で明るく元気に働ければ、患者さんにも優しくなれるし、病院の雰囲気も良くなります。そこで「日本一きれいな」「日本一職員にやさしい」「日本一患者にやさしい」病院へ、という3つの目標を掲げて改善に着手しました。

「日本一きれいな病院」については、18年間を費やした再開発事業が完了、きれいに整備されたばかりだったので、花や緑を随所に植え、誰もが気持ちよく過ごせる美しい環境づくりに努めています。

改善の手を緩めることなく 経営の健全化に力を尽くす

「日本一職員にやさしい病院」のためにまず取り組んだのは、非常勤職員の常勤化です。それまで薬剤師や放射線技師といった職員は、人件費削減のために5年という条件付き任期で雇われており、有能な人材の流出が避けられませんでした。かといって常勤化には約1億円が必要ですが、お金の捻出法に悩みましたが、診療日を1日増やせば調達できるとわかり、旧盆に診療することで約50人の常勤化を実現しました。

また、病院では医師ばかりが目ざ

れがちですが、どの職種も重要で、それぞれの課題を克服することが病院の前進に繋がります。先日老朽化した給食システムを一新し、機内食と同様の急速冷凍システムを導入。担当職員の士気が高まり、給食がぐっと美味しくなりました。4月から本格稼働の予定ですが、患者さんにもきっと喜んでいただけるかと思っています。

そして「日本一患者にやさしい病院」に関しては、投書などを通じて患者さんの声に耳を傾けています。これまでに実施したことと言えば、バス会社と交渉して病院に乗り入れる路線バスを増便。バスの到着を告げる電光掲示板も、患者さんが屋内でバスを待てるように、本院の経費で院内版を設置しました。また、入院患者さんの希望を取り入れて図書室を新設。職員が持ち寄った蔵書に加えて児童図書を大量に買い入れ、小児科病棟にはミニ図書館も開設しています。

改善には資金がかかりますが、おかげさまで就任以来赤字で推移しており、収益が上がれば投資できる額も増えます。後任者により良い形でバトンタッチできるように経営の健全化に努めるとともに、職員と一丸となって「日本一」を目指していきたいですね。